

## 研究活動報告

### 日本地理学会2022年春季学術大会

日本地理学会2022年春季学術大会は、2022年3月19日（土）および20日（日）の2日間にわたり、東京大学をホスト校としてオンラインで開催された。「人口・行動」セッションにおける報告は下記のとおりである。

- ・中山研一朗（立教大・院）ほか「都道府県別出生率の比較および背景要因の推定」
- ・佐藤将（東京外国語大）「東京大都市圏における3人以上の子どもを持つ世帯の動向調査」
- ・牧野紘己\*（早稲田大・学）、山内昌和（早稲田大）「人口移動が日本の人口分布と人口構造に与えた影響—2005年SSM調査を用いた分析」
- ・野村侑平（東京大・院）「『国勢調査報告』と『在留外国人統計』における外国人人口の乖離とその要因」
- ・藤媛媛（東北大）ほか「在日外国人の集住と社会的統合—インターネット調査の結果を用いて」
- ・丁茹楠（熊本大・院）「九州の中国人留学生における就職に伴う地域的移動と地方圏残留要因」
- ・石井久美子（筑波大・院）「地域の労働市場における工業高等専門学校がもたらす役割—茨城工業高等専門学校を事例に」
- ・綱川雄大（明治大・院）「高度熟練労働者の超郊外へのライフスタイル移住とその意味—長野県・軽井沢の事例」
- ・佐藤裕哉（下関市立大）「富山県における若者のライフコースとその形成要因—地域産業教育の影響に着目して」
- ・伊藤智樹（都立三鷹中等教育学校）「広島県呉市豊町御手洗における地域づくりに参画する関係人口に関する研究」
- ・住吉康大（東京大・院）「移動生活の途上における場所感覚の研究に向けて—「アドレスホッパー」はどこに住んでいるのか？」
- ・中澤高志（明治大）「コロナ禍における市区町村別テレワーカー率の推計」

上記のほか、「政治・社会」のセッションにおいて久井研究員が「『リスケーリング』は日本の地方自治制度に当てはまるか？—地理的スケール概念の再検討」のタイトルで報告を行った。

今回の大会では、人口に関連して例年以上に多彩なテーマでの報告が得られ、とくにコロナ禍における人口移動傾向の変化が強く意識されていたように感じられた。（小池司朗 記）

### 特別講演会「インドの型破りな人口変化とその影響」

2022年4月11日（月）18:30から、オンラインにてK.S. ジェームス インド国際人口研究所 IIPS 所長により「インドの型破りな人口変化とその影響」と題する特別講演会が行われた。2019年の標準登録システムのデータによれば、インドの合計特殊出生率は2.1を記録し、さらに国内の地域別にみると、デリーやパンジャブ、南部の州などで1.5を記録する地域も多くある。「型破り（unconventional）」